

平成30年度 学校自己評価システムシート (埼玉平成中学校)

目指す学校像	第一希望の進路実現のために必要な学力や知識を身につけさせるとともに、実践をとおして豊かな人間性を磨き、Society5.0の時代を迎える厳しい社会の中でたくましく生き抜くために必要な資質や能力を身につけさせる学校づくりを目指す。
--------	--

重点目標	AIの時代だからこそ必要とされる「人間力」を育てる 1 英語力を鍛える教育の徹底・英検目標級への全員合格 2 コミュニケーション能力の強化・日本語検定目標級への全員合格 3 徹底した論理的思考力の育成 4 科学的な実習等を通して、主体的、協働的な姿勢の育成
------	--

達成度	
A	ほぼ達成 (8割以上)
B	概ね達成 (6割以上)
C	変化の兆し (4割以上)
D	不十分 (4割未満)

出席者	
学校関係者	3名
事務局(教職員)	3名

学校自己評価						学校関係者評価		
年度目標				平成30年度 評価 (3月16日現在)		実施日平成31年3月16日		
番号	重点目標(評価項目)	現状と課題	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	
1	英語力を鍛える教育の徹底・英検目標級への全員合格	<ul style="list-style-type: none"> <li>英語教育の4技能の中でスピーキングの力が弱い。</li> <li>6年間で2度の海外語学研修を行っているが、現地で英語を十分に活用できるかが課題である。</li> <li>英検での取得率は全国平均を上回っているが、各学年での目標級を全員が合格できるようになることが課題である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>English Campの中で英語で話すことが好きになるような工夫をする。</li> <li>English Station(英会話サロン)の内容を工夫する。</li> <li>英語スピーチコンテストの指導を強化する。</li> <li>高等部のGTECでスピーキングを加えた4技能テストの導入する。</li> <li>中等部3年生 オーストラリア語学研修旅行でパディーとの会話の機会を増やす。</li> <li>高等部2年生 アメリカ語学研修旅行で、自己評価させる。</li> <li>英語検定対策のための特別授業時間の設定やステップアップの英検対策講座を活用していく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>English Campの成果</li> <li>英会話サロン成果</li> <li>スピーチコンテストの成果</li> <li>GTECの結果</li> <li>オーストラリア語学研修旅行の成果</li> <li>アメリカ語学研修旅行の成果</li> <li>英語検定の結果</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>1年生と2年生が全員参加。10のレッスンを体験。</li> <li>月曜日と金曜日の放課後、20分×3コマで通年実施。</li> <li>文化祭の中で実施。9名が参加。校内大会での入賞者3名が地区大会に出場。</li> <li>中等部 グレード2以上達成率 H29 27.1% ⇒ H30 16.7%</li> <li>高等部 グレード4以上達成率 H29 17.0% ⇒ H30 23.3%</li> <li>CEFR A2達成率 25.6% B1達成率 2.3%</li> <li>オーストラリア語学研修旅行 参加率95.7%</li> <li>学校訪問及びファームステイで現地の方々との対話の機会あり。</li> <li>中等部3年生 3級取得率 H29 48% ⇒ H30 48%</li> <li>高等部3年生 準2級取得率 H29 52.6% ⇒ H30 54.5%</li> <li>*中3生で2級に1名、高3生で準1級に1名が合格。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>実施時期と利用施設を検討。</li> <li>自由参加期間の利用者を増やすことが課題。積極的に生徒へ参加を呼び掛ける。</li> <li>地区大会で入賞できるように指導する。自らの体験を基にした内容にしていくことを指導する。</li> <li>英語センスの高い生徒を募集するためにブラブリッシュ入試を充実させる。</li> <li>今年度のスピーキングテストの内容を参考に次年度も強化していく。</li> <li>現地校の生徒との密度の濃い交流に改善をしていく。</li> <li>中3生の3級合格率を50%以上にする。英検対策授業の強化。</li> </ul>	English Camp の代替案を具体的に明記していくべきである。 GTECの達成率が表記してあるが、学年ごとの目標を示した上で、その達成具合を表記すべきである。 1年後に生徒の実力をどれくらい伸ばすかを考え、その実現のための改善策を講じるべき。 達成度をパーセントで表示しているが、生徒数が少ないと1人の増減も大きく影響する。在籍人数分の合格者数の分数で表示した方が良い。
2	コミュニケーション力の強化・日本語検定全員受験	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分の考えを表現する「言語力」をしっかりと身につけることが課題である。</li> <li>「主体的・対話的で深い学び」の実践により、人の話を聴き、人前で自分の考えを適切に伝えるようになることが課題である。</li> <li>日本語検定において全生徒の合格に向けての対策指導強化が課題である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>NOLTYスコラ手帳の活用をさらに徹底し、日記の習慣を定着させる。</li> <li>講演会やの諸行事に関する感想文指導を強化していく。</li> <li>社会科などの教科において、グループワークを取り入れた授業の実践回数をさらに増やし、主体的に学ぶ力を育成する。</li> <li>対策のために授業内の時間で特別指導の時間を増やす。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>NOLTYスコラ手帳の記録</li> <li>諸行事での感想文の成果</li> <li>講演会の成果</li> <li>「主体的・対話的で深い学び」の実践</li> <li>日本語検定の結果</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>NOLTYスコラ手帳を利用しての日記の習慣化させ、言葉力を向上させることができた。</li> <li>年間で12回の行事の後に感想文を書かせ、自分の考えや印象を表現する力を育てることができた。</li> <li>社会科を中心に、グループワークを取り入れた授業の実践をとおして、深い学びを体験させた。</li> <li>中等部3年生 4級取得率 H29 85.7% ⇒ H30 78.3%</li> <li>高等部3年生 3級取得率 H29 52.6% ⇒ H30 72.7%</li> <li>*高1生で1級の準認定取得者が1名。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>日記欄に自分の気持ちを書けるように指導を継続していく。また、保護者の協力もお願いしていく。</li> <li>行事を体験した直後に感想文を書かせることを習慣化していく。</li> <li>今後、より多くの教科で「主体的・対話的で深い学び」の実践をしていく。</li> <li>来年度もそれぞれの生徒が目標とする級に合格できるように指導を継続していく。</li> </ul>	自分の意見や考えを文章にまとめることを習慣化することはとても大切なことである。 日本語検定では、中3の4級取得率が昨年度よりも下がっているが、高3の3級取得率は昨年度よりも上がっている。特に高1生で1級の準認定の生徒がいるのは素晴らしい。
3	徹底した論理的思考力の育成	<ul style="list-style-type: none"> <li>キャリア学習の面で、自分の将来像をきちんと描けていない状況である。</li> <li>生徒のプレゼン能力の質を向上させる。</li> <li>経営シミュレーションCAPS、MESEへの取り組みの更なる質の向上を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>体験学習により積極的に取り組む。</li> <li>計画的・系統的なキャリア教育を実践する。</li> <li>テーマ選定のヒントを与える。</li> <li>聴衆の前で発表できる力を育成する。</li> <li>経営感覚と論理的思考力をさらに鍛える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>JICA、外務省等、訪問成果</li> <li>諸行事での感想文の成果</li> <li>講演会の成果</li> <li>研究発表会成果</li> <li>CAPS・MESEの取組み成果</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>中等部2年生がJICAを訪問。</li> <li>中等部3年生が読売新聞社及び外務省を訪問。読売新聞社では記事のまとめ方を学習した。外務省では国際関係について学習した。</li> <li>中等部1年生から高等部1年生までの合計25名が発表した。</li> <li>中高生ともに年2回実施。経営シミュレーションゲームを通して、中高生ともに論理的思考力を鍛えながら、利益をいかに出していくかという経営感覚を身につけた。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>「社会を知る」という意味ではとても貴重な体験ができるイベントである。次年度も継続していきたい。</li> <li>論理的思考力を身につけさせるための非常に意義のあるイベントであり、参加者も増えてきているので、実施形態を工夫していく。</li> <li>学年の枠を超えたチーム編成により、たくさんの人たちと意見交換ができるように工夫していく。</li> </ul>	官公庁や一流企業を訪問することは生徒達にとってとても有意義なイベントである。 中学1年生からイベントを使用しているのプレゼンテーションを体験できているのは素晴らしい。
4	科学的な実習等を通して、主体的、協働的な姿勢の育成	<ul style="list-style-type: none"> <li>English Career Courseは設置したが、理系の視点での取り組みが不十分である。</li> <li>主体的、協働的に学習した内容を整理し、発表できる力を身につけることが課題である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>来年度の「Science Pioneer Course」新設に向けて、最先端の研究機関を訪問することによりその基盤をつくる。</li> <li>学習成果発表でパワーポイントの一層の工夫をさせ、充実させていく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「科学の不思議しらべ隊」日本科学未来館訪問成果</li> <li>「夢科フィールドワーク」のプレゼンテーションの成果</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>日本未来科学館での「科学の不思議しらべ隊」には中等部4名、高等部4名が参加。</li> <li>文化祭時に中等部4名の生徒が「科学の不思議しらべ隊」で学習した内容をパワーポイントを使用し、プレゼンテーション形式で発表した。</li> <li>中等部1年生が2つのグループに分かれ、現地で調べた高山植物についてプレゼンテーション形式で発表した。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>取り組み方策や内容については新設されるサイエンス・イノベーションの中にも取り入れていく。</li> <li>高校のサマースクールと合流させ、近い場所でのフィールドワークを実施していく。</li> </ul>	とても魅力的な取り組みをしているが、実践していることを外部(小学生)にどのように発信していくかが課題である。 子供の目線で魅力的な内容をアピールしていくことが大切である。